

ディボーション質問表



ホセア書は大きく3つに分けることができます。1～3章：ホセアの家庭生活を通してのメッセージ。4～13章：イスラエルの罪とさばきの宣告。14章：イスラエルの繁栄の約束。

23日(月) ホセア書 7:1～16節 為政者たちの罪

1. 1～2節は当時のイスラエルの性質が表されています。現代の罪人と共通する、どんな性質が見てとれますか？
2. イスラエル王国の最後の6人の王達のうち、4人までが死刑に処せられています。同時に国も罰せられ、荒廃しました。わたしたちはどのように自国の政治に対して関わっていくべきでしょうか？
3. 14～16節には「神に助けを求めず、むなしいものに向かった。」とありますが、私たちが日々の生活において、神から目を離してしまう時にどんなものに心が向けられやすいでしょうか。あなたの場合はどうか考えてみましょう。

24日(火) ホセア書 8:1～14節 民の背信

1. ここではおもにイスラエルのアッシリヤへの屈従が描かれています。神を恐れぬ者は結果的に人を恐れる事へと行き着くのですが、イスラエルはその自覚がありませんでした。あなたはどこか人を恐れているところがないでしょうか。あるなら、その原因を神に聞き祈ってみましょう。
2. 人を恐れた結果、彼らはどんな状態に陥っていますか。私たちの周りには同じようなケースがないでしょうか？
3. アッシリヤに蹂躪された彼らはエジプトに頼るようになります。これによって彼らは神の祝福を放棄してしまいました。私たちはどうでしょうか？

25日(水) ホセア書 9:1～17節 神のさばき

1. 偶像礼拝を姦淫の罪にたとえています。偶像礼拝と姦淫の罪については何か関連性があると思いますか。またこの2つの罪は人のところにどんな影響を与えていくでしょうか？
2. 7～9節でホセアは文字通りの扱いを受けることとなります。預言者的な生き方をする事に対する代償です。あなたは人の評判を気にしすぎて、逃げ腰になっているところはないでしょうか。またこのような仕打ちにも耐えたホセアの生き方からあなたは何を学ぶことができるでしょうか？
3. ベオルとギルガルは初代の王サウルが王に任じられた場所でもあり、大きな罪を犯した場所でもあります。何世代も経てなお、ここが悪の代名詞となっていることは何を意味していると思いますか。また神はどのような脱出の道を備えているでしょうか？

26日(木) ホセア書 10:1～15節 偶像礼拝とギブアの罪

1. 豊かさや偶像礼拝との関連について、聖書は語っています。また、偶像礼拝は正しい権威の概念をなくさせます。それによって社会はどのような影響を受けるでしょうか？
2. 11～12節にある、神からのくびきは何を教えていますか。それはわたしたちにどんな祝福をもたらすでしょうか？
3. シャルマンはアッシリヤの王、シャルマネセル5世のことと思われる。神は現代、どの国に顕著に働いていると思いますか？

27日(金) ホセア書 11:1～12節 主の愛による回復

1. ここには神の愛が余すところなく、表現されています。あなたにとって最も新鮮な記述はどこでしょう。また自分のことばで、神の愛に応答してみましょう。
2. アドマとツェボイムはかつてのソドム、ゴモラのことです。この箇所からイスラエルへの神のどんな気持ちたちが反映されていると思いますか？

28日(土) ホセア書 12:1～14節 悔い改めへの招き

1. この箇所から、イスラエルのどんな罪がうかがえますか。特に現代に通じるものは何でしょうか？
2. 7節の命令を人はどのように、実行できるでしょう。またそこにいたるまでの道のりをイエス様はどのように整えましたか。特にイエス様のされた事を覚え感謝する時をもちましょう。